

# 伊高生、頑張っています!



本番に向けて練習に励む南薩地区合同バンド

24日、日置市の伊集院文化会館

本番まで1週間  
練習に熱

## 思い一つに演奏を

「文化部のインターハイ」と呼ばれる第47回全国高校総合文化祭（総文祭）は29日、鹿児島県内で開幕する。吹奏楽部門に出演する南薩地区合同バンドは12校117人で構成。規模は最大ながら、部員が数人という学校から来た生徒も多い。順位の付かない部門だが、メンバーらは「思いを一つに楽しい演奏を」と意気込んでいる。

### 吹奏楽・南薩合同12校117人

しま文  
かご総  
2023

「もつとテンポを上げて」「もう1回行こう。1、2、3」。31日の本番を1週間後に控えた24日、日置市の伊集院文化会館。南さつま市、指宿市などから100人近い生徒が制服や練習着姿で集まり、最後の音合わせに臨んでいた。

「47年に一度の地元開催。できるだけ多くの生徒に経験の場をつくりたい」。合同バンドは伊集院高校の前田礼子教諭(50)が旗振り役となつて実現した。新型コロナウイルスの流行で難しい対応を迫られる中、各校の協力を得て3月から合同練習を重ねてきた。

今回、前田教諭らは始皇市の作曲家・平山雄一さん(28)に曲の制作を依頼。旅立つ人への応援曲「DEPARTURE」が完成した。明治初めに披露する。薩摩藩から派遣された軍楽伝習生が英国陸軍軍楽隊から指導を受けた縁で、鹿児島は日本吹奏楽の原点とされる。前田教諭は「薩摩藩士が最初に演奏した曲と、最新の曲を並べた。大会を盛り上げたい」と話す。副団長を務める伊集院高3年の久保園さくらさんは「普段は20人程度での演奏だが、これだけの大人数で合わせるのには貴重な経験。憧れだった総文祭の舞台に、最後に出場できてうれしい」と笑顔を見せた。

吹奏楽部門は31日と8月1日、鹿児島市の宝山ホールであり、40都道府県から42団体が出場。県内からは鹿児島情報高、加治木高も単独で参加する。

(山下翔吾)